大会報告

岩とスリルのバカンス

ボヘミアオリエンテーリング 5 日間大会　2011 年夏　チェコ共和国

杉本光正

チェコのレースでクラス優勝。チェイシングレースのトップスタートというドキドキのレース展開

ボヘミアオリエンテーリング５日間大会の最終日に優勝を決めた杉本光正

久しぶりのチェコ

四半世紀ぶりのチェコである。27 年前と 25 年前にイーチン 5 日間大会に参加しているが、当時はまだチェコスロバキア、社会主義の時代。その時の印象は、暗い、煤けている、物事がうまく進まない、サービスする気がない、といいところがない。それが、EU の一国となったいま、国の雰囲気は大きく変わっていた。町並みは掃除が行き届いて美しく、人々は親しみやすく穏やかである。地方に行くと、英語もドイツ語も通じないといった不便もあるが、旅行全体を通じて、のんびりとくつろいだ日々を送ることができた。

プラハで 1 日観光してから、レンタカーで大会が行われるノヴィー・ボルに向かう。途中でワグナーゆかりの古城を観光、ディチーンという町では対岸に城館を臨む川辺のレストランで鱒のグリルを楽しむ。ノヴィー・ボルはプラハから北に 90 キロ、ドイツ・ポーランドの国境に近い、メインストリートもささやかな田舎町である。

ワグナーゆかりのストジェコフ城

岩だらけ

チェコでのオリエンテーリングといえば、印象的なのは岩である。その洗礼を受けたのが第 1 日目の 4 番コントロールであった。慎重に 1・2 番を通過し、3 番をチェックしたあとのショートレッグ、斜面の岩を回り込んだところにフラッグがあると思って進んでいくと、そそり立つ岩に挟まれた細い沢に入り込んでしまう。10m もあろうかという岩がけ。地図を見直すと、4 番はこの沢を越えた反対の斜面の岩がけの上だということに気がつき、あわてて沢を登り返す。1 分程のロス。地図上の岩は、上から見た面積は表記されているものの高さが表現されていないために、表記から現地の様子をイメージのするのがきわめて難しい。現地で地図と岩とを対応させながら、岩に気をとられず地形を読むようにして進んで行くしかないが、一度現在地を見失うとリロケートがなかなかできない。結局この日は、ゆっくりと進んだのが功を奏して、秒差で H45S クラスの 1 位になることができた。

上位を狙って

S(ショート)クラスにエントリーしたのは、ある程度緊張感のある状態で最終日まで競技をしたかったからである。ノーマルのクラスでは上位に絡むことはまず無理で、最終日のチェイシングの時間制限に残れるかどうかという勝負になることは目に見えている。S であれば、少なくともノーマルクラスよりはましな順位をとれるだろうと判断したわけだが、この日の結果を見る限りこの選択は正解だったようである。

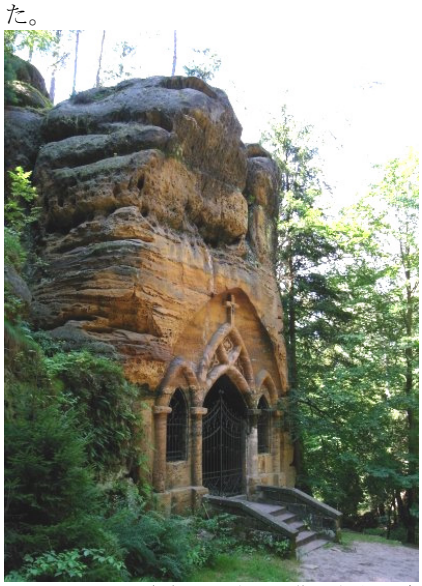
子供プログラムも充実

私が走っている間、女房と娘は T10P という子供向けのクラスに参加していた。テープ誘導あり、10 才以下、親同伴可というクラスである。親同伴なしの T10 もあるのだが、こういうクラスに大勢の子供たちが参加して、しかもみんな一人前の顔をして走って回っている。こんなところでも、彼我の差ははるかに大きい。我が娘は、遊び半分ながらも、1 日 3 キロ程のコースを何とか 5 日間完走。初日こそ 90 分かかったものの、最終日には慣れて 40 分程で帰ってくるようになった。

名所も岩だらけ

午後は、1 時間程ドライブをして州都リベレツまで遊びに行ったり、近郊の観光地をめぐって歩く。独立した巨大な岩塊の上に建てられた隠者の砦、テレイン内にある岩をくりぬいて作られ

た聖堂、パンスカ・スカラと呼ばれる柱状列石の小山と、岩関係の名所が多いが、どこもなかなかに見応えがあった。



岩をくりぬいて作られた聖堂
３日目のレーステレインの中にある。

2 日目に総合 1 位を譲ってしまったものの、3 日目のミドルで、難易度の高い岩石地帯を無難にこなして返り咲く。結局、2 位と 2 分 35 秒の差で最終日を迎えることとなった。

チェイシングレースを制する

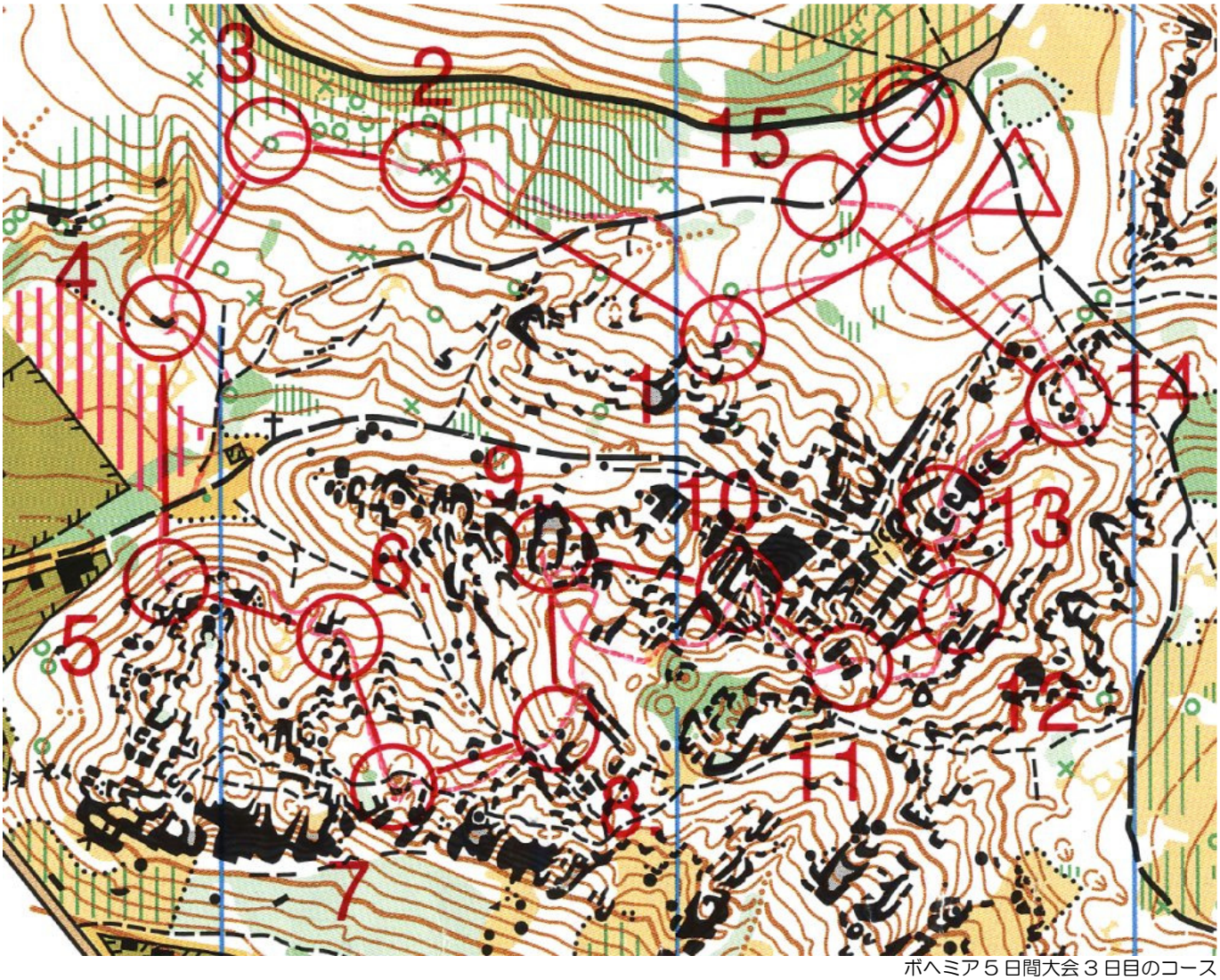
最終日、スタート地点で「H45S-1」と書かれたスペシャルゼッケンを受け取る。トップでチェイシングスタートに臨むというだけでも得難い経験である。スタートレーンに入ってから、2 番と 3 番のゼッケンの選手を見つけて握手を交わす。4 日目まではスタートタイムが離れていたために、顔を合わせるのはこれが初めてである。2 位の選手は 1 日目こそ 7 分離したものの、その後の 3 日間で 5 分つめられている。2 分半の差は決してセーフティリードではない。どのような気構えで走るべきかスタート直前まで悩んだ。普段通りにやるというのが一番であることは自明であるが、それこそが難しいということもわかっている。

結局、走りだけは気を抜かずに最後まで足を動かし続けようということだけ心に決めてスタートする。5 番までは細かい地図読みが要求されるレッグで、慎重に進み大きなミスもなく通過する。

ノヴィー・ボル名物の岩がけ近くに設置された 8 番を過ぎ 9 番をとると、あとはほとんどランニングコース。ところが 11 番のオープン脇の切り株のコントロールにラフにアタックして外してしまう。オープンの縁を走り回るが見つけられず、1 分以上のロス。後続にかわされたのではないかと不安になるが、残り 3 レッグは問題なくこなし、ゴールレーンを駆け抜ける。放送で名前が呼ばれているのはわかるが、チェコ語なので逃げ切れたのかどうかわからない。ゴール後、役員から「コングラッチュレーション」と握手を求められ、ようやく優勝できたことがわかった。2 位には数秒つめられただけであった。

優勝の副賞は地ビールが 8 本。オリエンテーリングを中心に回る 5 日間の幸福な日々は、いかにもチェコらしく幕を閉じた。

（杉本光正）



ボヘミア５日間大会３日目のコース